

## 平成29年度（第58期）事業計画

### I 基本的な考え方

当研究所は、公益財団法人として、金融・資本市場に関する研究調査とその成果の公表、資料の収集と公開等を通じて、関連する学術の振興を図り、金融・資本市場の発展に寄与するとともに、公正かつ自由な経済活動の機会の確保と促進、その活性化による国民生活の安定向上に資することを目的として活動を行っている。

研究調査は、金融・資本市場のさまざまな課題に関する基礎的研究に重点を置いて進めている。当研究所では、各分野の学者・専門家等から成るさまざまな研究会の活動を中心に研究を行っている。金融・資本市場を取り巻く環境が大きく変化する中、市場関係者の問題意識等を十分に取り込みつつ、積極的に研究調査に取り組むことにより、当研究所への期待によりの確に応えていくことが課題となっている。

また、研究調査の成果や保有する資料等に関する情報を発信するに当たって、情報発信のチャンネルや発信内容の一層の充実を図ることにより、研究者や市場関係者のみならず、より多くの方々に当研究所の研究調査の成果を役立てて頂けるよう努めることも大きな課題である。

合わせて、当研究所を巡る厳しい財務環境を踏まえ、事業運営のさらなる効率化に努めることとしたい。

### II 本年度の重点事項

以上のような基本的な考え方を踏まえて、平成29年度は、以下の施策を重点項目として推進する。

#### ① 研究活動の充実

平成28年度に新たに1名の研究員（エグゼクティブ・フェロー）を採用したこと等により、平成29年度当初の研究体制は、研究員10名（うち非常勤2名）、専門調査員2名（いずれも非常勤）となる。

こうした研究人材の能力を最大限生かし、研究活動の一層の充実を図るため、研究環境の改善や研究所の運営面の工夫を図っていく。

(2) 金融商品取引法研究会 (会長 神田秀樹学習院大学法務研究科教授)

- ① 当研究会では、金融商品取引関係法に関連する最近の法的諸問題について、これらの分野の専門の法律学者のほか、金融庁担当者、法律関係の実務家等の参加も得て、法制立案、法律解釈及び法律実務の観点から検討・討議を行っている。
- ② 平成26年4月～29年3月までのセッションの研究成果は、前半分を平成28年11月に単行本にまとめて公表したところであり、後半分についても平成29年中を目途に単行本として取りまとめる予定である。
- ③ 研究会での報告・討議の様子は、開催の都度、『金融商品取引法研究会研究記録』として刊行するとともに、ホームページにも全文を掲載している。
- ④ 現在、今後の研究の進め方について検討しているところである。

(3) 証券税制研究会

- ① 当研究会では、今後の証券市場を展望し、長期的視点に立って、証券市場を巡る税制のあり方について、総合的、体系的に研究を行ってきた。
- ② 平成27年1月より、「リスクと証券税制」をテーマとして行ってきた前セッションの研究の成果は、平成28年11月に単行本に取りまとめて公表したところである。
- ③ 現在、今後の研究の進め方について検討しているところである。

(4) 株式市場研究会 (主査 福田徹当研究所主任研究員)

- ① 当研究会では、「日本の株価形成に関わる問題点」を基本的なテーマに据え、最近の株式市場の動向や市場取引の諸問題等を具体的な研究対象としている。
- ② 具体的には、ファンダメンタルズと株価を結び付けるコーポレートガバナンス、流通市場における需給関係を一致させる仕組みであるマイクロストラクチャーに主眼を置いて、研究を進めている。
- ③ 研究成果は、平成30年3月刊行の『証券経済研究』に掲載する予定である。

(5) 公社債市場研究会 (主査 深見泰孝駒澤大学経済学部講師・当研究所嘱託研究員)

- ① 当研究会では、公社債の発行及び流通に関する諸問題について研究を行っている。
- ② 「異次元金融緩和下の公社債市場」を基本テーマとする、平成27年4月～29年3月までのセッションの研究成果は、平成29年3月刊行の『証券経済研究』に掲載する予定である。
- ③ 現在、今後の研究の進め方について検討しているところである。

- ② 平成29年度は、アメリカの現地調査を実施する予定であり、その後、証券会社が破綻した場合におけるわが国の法制の問題点について整理を進めることとしている。

#### (11) 証券業界とフィンテックに関する研究会

- ① 日本証券業協会における問題意識を踏まえ、平成28年5月に「証券業界とフィンテックに関する研究会サーベイグループ」が設置され、フィンテックの全体像、実例、背景及び評価、並びにフィンテックの進展が証券業界に対して有するインプリケーションなどについて整理を行った。
- ② 平成29年度は、新たに研究会の本体を立ち上げ、本サーベイグループの研究成果を踏まえ、日本証券業協会において絞り込まれたテーマについて、さらに掘り下げた研究を行う。

#### (12) 国際金融規制研究会（座長 河野正道当研究所エグゼクティブ・フェロー）

- ① 当研究会は、平成28年11月に、証券界・資産運用業界のみならず、幅広い金融界から参加を募るとともに、この分野に通じた学識経験者等の参加も得て設置された。
- ② 当研究会は、最近における国際金融規制の動向を注視し、各種規制の導入過程においてわが国関係者が適切な情報発信を行うとともに、わが国金融機関の新たな規制環境への適切な対応を実現することを目的として活動しており、平成29年度もこれを継続する。

#### (13) 資産の形成・円滑な世代間移転と税制の関係に関する研究会（座長 井堀利宏政策研究大学院大学教授）

当研究会は、平成29年2月に、日本証券業協会における問題意識を踏まえ、投資リスクの軽減を図り、経済成長に寄与する投資を促進するための税制措置やリスク資産の円滑な世代間移転のための環境の実現に向けた政策体系や方向性等について、実証分析を含めた包括的な調査・研究を行うために設置されたもので、平成29年度もこうした問題意識に基づいた研究を継続する。

## 2 その他の研究調査活動

### (1) 内外市場動向等に関する調査

当研究所の研究員、調査員が、①内外金融・資本市場に関する調査、②わが国及び主要国の金融・資本市場の現状についての調査分析、③海外証券関係法令の調査分析等を行っている。

ている。現在は昭和20年から直近までのデータを掲載しているが、今後、さらに古い時代に遡って掲載し、検索できるよう改善を図っていく。

### (3) 研究員等の行う個別テーマの研究調査

当研究所の研究員、調査員は、上述の研究調査活動のほか、それぞれの研究テーマに沿って研究調査活動を行っている。

## 3 研究調査活動の成果の公表

研究調査活動の成果を、出版物をはじめとする各種の媒体を通じて幅広く公表する。

### (1) 定期刊行物

- ① 当研究所の学術面の機関誌として季刊『証券経済研究』を6、9、12、3月に刊行する。
- ② 講演録、証券史談及び小論文・調査資料などを掲載した『証券レビュー』を毎月刊行する。必要な場合には、『証券レビュー』別冊の刊行を検討する。
- ③ 証券経済研究会の研究成果を掲載した隔月刊『証研レポート』を4、6、8、10、12、2月に刊行する。

### (2) 単行本

研究調査活動の成果を随時単行本として刊行する。

### (3) ホームページ

研究調査活動の成果を公表するツールとしてホームページを活用することとし、このため、定期刊行物・単行本の内容は原則としてホームページに掲載する。

## (II) 講演会事業（公益目的事業2）

平成28年度に行った講演会事業の見直しを踏まえ、引き続き事業内容の充実に努める。

### (1) 「資本市場を考える会」

- ① 原則として月2回（8月及び1月を除く）、外部の学者、専門家、行政官等を講師とし、

#### (1) 利用者サービスの充実

新着図書案内、蔵書検索、証券関係論文・記事データベースなどのサービスをホームページを通じて提供するとともに、文献照会等に対するレファレンス・サービスを提供するなど、利用しやすい図書館の運営に努める。

#### (2) 一層の利用者拡大——大学関係者への働きかけの継続

ホームページ、メールマガジン、案内リーフレットなどによるPR活動を推進し、一層の利用者拡大を図る。この一環として、平成29年度においても、当研究所研究員・客員研究員等の協力を得て、大学関係者（教員、大学院生、学部生）に対する利用の働きかけを継続する。

#### (3) 官公庁等公開資料の収集・供覧

金融庁、財務省の審議会議事録等、証券市場・証券業務に関連する内外の公開資料を積極的に収集し、利用者の閲覧に供していく。

#### (4) 「特別展示」コーナーの開設

金融・資本市場関係者等の関心が高いテーマについて、関連する文献や論文記事等を積極的に収集し、タイミングを捉えて東京の証券図書館内又はホームページ上に「特別展示」のコーナーを設けて紹介する。

#### (IV) ホームページの積極的な活用

当研究所では、ホームページ (<http://www.jsri.or.jp>)、及び金融・資本市場に関する各種統計データへのリンク集である「証券統計ポータルサイト」(<http://www.shoken-toukei.jp>)による情報提供を行っている。今後とも、当研究所の研究成果等の情報発信チャンネル及び知名度向上のためのツールとして、ホームページの一層の活用を図る。

以 上